



笠縫学区ホームページ

http://www.machikyou.jp/kasanui/

発行：笠縫学区まちづくり協議会

連絡先：笠縫まちづくりセンター  
TEL・FAX562-0071

Eメール：kasanui@machikyou.jp

笠縫学区（10月31日現在）

男性 5402人 女性 5683人

世帯数 4698世帯



市長とまちづくりトーク

まちづくり協議会では、十一月十九日（木）に、橋川渉草津市長を招き、2つのテーマについて、市長とまちづくりトークを開催しました。

今年度は、参加者の人数制限や場所の配置など、新型コロナウイルス感染症の防止対策を行ったうえで開催となり、参加者は41名となりました。

1つ目のテーマとして「環境整備事業への支援」について提案しました。

①学区の景観形成への支援制度

②地域再生計画（市街化調整区域の郊外部における課題解決のための計画策定）の観点から景観環境整備事業の実現性



③自然環境保全地区（老杉神社等）の環境整備への助成制度

および保全地区の活用金について

この提案に対して、市長のコメントは、次のとおりでした。



③当該保全地区への維持管理の助成以外に、活用の可能性を議論しており、今年度中にまとめ。また、台風等による倒木問題があり、危険な樹木の除去に取り組み。

④地域の課題を捉えたいうで課題解決のために使ってほしい。

との回答をいただきました。続いて2つ目のテーマとして「高齢者福祉」について提案しました。

①「高齢者が安心して暮らせるまち」の市の考え

②地域にはどのような取り組みが有効か。

③先進的な取り組み事例の紹介

④「ごみ出し支援」について

次のような回答をいただきました。



システム」の仕組みを進めていきたい。

②各地域で取り組む「地域サロン」や「いきいき百歳体操」は、健康づくりと社会参加を得られる。「学区の医療福祉を

考える会議」では、医療と福祉が連携してサービ

スを提供できるよう、まちづくり計画に含めて取り組んでもらっている。

③市内の先進事例として、高齢者声かけ訓練、カフェ、送迎支援等

④ごみ出し問題への対応は、市としても大きな課題と認識しており、市内外の事例を研究し、今後、地域と共に仕組みづくりをしていきたい。

その他、高齢者の見守り、若い世代が草津市へ来る施策などについて、懇談しました。

今回、コロナ禍の中で開催ではありませんでしたが、市長との有意義な機会となりました。

当協議会では、今回の内容を貴重な意見として、今後の活動に活かしていきます。

①県の条例に基づき「近隣景観形成協定」を地域で結べば、活動に対して県や市からの補助金制度がある。

②下笠地域を中心に策定中の地域再生計画「笠縫学区まちづくりプラン」を今年度中に完了し、具体化を図る。

## 笠小3年生とGG体験交流会を開催

地域福祉部会 協力：笠縫学区老人クラブ連合会

10月26日（月）爽やかな秋風の心地よい季節の中、今年度も、笠縫小学校3年生114名とグラウンドゴルフ体験交流会を開催し、親睦を深めました。

開催にあたり、児童たちのけじめのある挨拶や、普段お世話になっていることへの感謝を込めてのスタートなど、児童たちの成長ぶりを見て誇りに思いました。

コロナ禍であることから、4クラスを2回に分けて実施し、老人クラブの方の指導を受けながら、何とかボールをホールインさせようと一生懸命プレーする姿が見られました。



このグラウンドゴルフは楽しくなる場でもあり、体験交流の場として、欠かすことのできない一つだと思います。

今後も尚一層、グラウンドゴルフに限らず、まずは地域の中から参加者の交流を深めていけたらと思います。

### お礼の手紙を いただきました

参加した児童たちから、後日たくさんのお礼の手紙をいただきました。「またやってみよう！」との感想や、指導・準備作業への感謝、ねぎらいなど、温かい言葉に元気をもらいました。



## 令和2年度 笠縫学区まちづくり協議会 臨時総会（書面議決）

11月27日（金）笠縫まちづくりセンターにおいて、令和2年度笠縫学区まちづくり協議会臨時総会を実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大および感染防止対策等の影響により中止となった事業が多くあり、予算としては執行残額が生じています。

この執行残額を有効活用するため、当初の事業計画や事業予算を変更することとしました。

本来、臨時総会を開催して内容の審議をいただくところですが、今なお新型コロナウイルス感染の収束が見えない中、臨時総会は「書面表決書」の提出による、書面議決形式としました。

議決権を有する者は57人で、表決書の集計の結果、提出議案1件について、全員の賛成により、原案通り可決承認されました。

### 総会で承認された議案

#### 第1号議案

令和2年度笠縫学区まちづくり協議会収支予算の補正

（支出の補正内容）

- ・イベントテント（破損分更新）…500,000円
- ・ふるさと記憶絵かるた制作 …300,000円
- ・災害対策用物品 …800,000円

詳細は笠縫学区まちづくり協議会ホームページの「事業」ページからご覧ください。

【URL】<http://www.machikyuu.jp/kasanui/com/jigyo/>

### まちづくりセンターからのお知らせ

**ボタン電池は回収できません**



乾電池回収箱（バケツ）には乾電池のみ入れてください。

【回収できない電池】

- ボタン電池
- 充電電池

回収箱（バケツ）はセンター駐輪場の横に設置しています

### 今後の予定（12月15日～1月14日）

※記事作成時点での予定です。新型コロナウイルスの感染状況により、変更になる可能性があります。

12/25（金） まちづくり協議会 運営委員会

12/29（火）  
～1/ 3（日） まちづくりセンター 年末年始休館

## 人権講座を開催

笠縫小学校PTA・笠縫まちづくりセンター共催

11月26日(木) 笠縫小学校PTAと笠縫まちづくりセンターとの共催で、「人権講座」を51名の参加で開催しました。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染防止対策として、人数の制限・会場設営の工夫などを行いました。

講師に、滋賀県教育研究会の杉江範昭さんをお招きし、『わが子を“幸せ”にする育て方って…?』～人権教育をとおしてつけたいチカラ～と題してお話いただきました。

「高校から就職までの様々な進路を視野に入れたうえで、子どもたち自身が問題を解決していく力を育むためには、人権教育が大切です。人権教育を通して、不合理さを見抜く力・柔軟で多面的な考え方が育まれるのではないかと。生活の場面でも、学習教育の大切さや親の子どもに対する合理的な関りが大切です」とお話しいただきました。

参加者からは、「子どもが納得できる事をちゃんと喋っているのか、理不尽な事を押し付けていないのか反省しました。まず、親が正しい知識を学び、子どもに伝えていかなければと思いました。子どもとの何気ない会話の中で、自然にお互いの考え方を話し合っていく機会を持つようにしていきたいです」といった感想がありました。



話の中で、自然にお互いの考え方を話し合っていく機会を持つようにしていきたいです」といった感想がありました。

## 笠縫っ子だより…



### 子育てサークル ハロウィンパーティー

子育てサークルの「のびのび」が10月22日(木)に、「めろんちゃん」が28日(水)に、ハロウィンパーティーをまちづくりセンターで開催しました。かわいく仮装した子どもたちは、お菓子をもらったりゲームをしたりと、楽しい時間を過ごしました。



のびのび



めろんちゃん

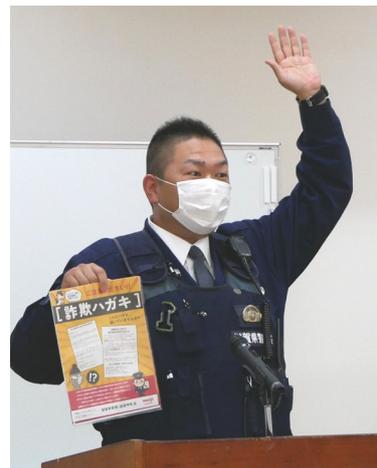
## 地域の絆が大切～防犯研修会を開催

地域安全部会

10月24日(土) まちづくりセンターにおいて、野村交番の木村仁所長を講師として、「地域の安全と防犯」をテーマに、38名の参加で防犯研修会を開催しました。

はじめに、ネット犯罪の事例が紹介され、近年増加しているのが「荷物を預かっています」という配送業者を装ったメールです。これは個人情報盗んで悪用するフィッシング詐欺というものです。

他に、事前に電話をかけて在宅を確認し、銀行員や警察官になりすまして家に来て、「キャッシュカードを預かります」などと言っただまし取るアポ電詐欺(強盗)もあります。知らない所からのメールや電話には決して出ないことです。



続いて、笠縫警察官駐在所の藤井智大所長とともに会場を回って、本物の警察手帳を皆に見せていただきました。

子どもたちの見守り活動にも注力し、地域の絆が深いほど犯罪は防げるし、安心安全なまちづくりにつながるということです。

交番と駐在所が連携し、協力し合って「地域の安全と防犯」に努めていきたいとの力強い言葉が参加者の心に響きました。

「地域に慕われている交番・駐在さん、いつもありがとうございます」「本物の警察手帳を初めて見ました。詐欺にあわないよう気をつけます」などの声がありました。



笠縫学区防災研修会

十一月七日(土)笠縫学区防災研修会をまちづくりセンターで開催しました。参加者は44名でした。

開会挨拶に続いて、NPO法人 しがいち防災研究所理事長の岩佐卓實氏から「これでいいのか、町の防災」と題して講演をされました。

研究所のメンバー6名の自己紹介に続いて、体を動かすリラククス体操を行い、6班に分かれて、野村・上笠・下笠地域の防災体制についてグループ討議を行いました。

討議の結果を班ごとに発表し、高齢者が多い。一人住まいの方の災害時の避難。道が狭く、救急車が入れない。避難放送が聞こえにくい。道路への駐車が多い等の意見が出ていました。

理事長が住んでいる野洲市大篠原の状況を発表し、



わが自治会にどんな危険が迫っているか?最近の台風での総雨量と被害状況について、駅の近くで膝まで水に浸かった。崖崩れがあったなど、映像で紹介されました。

最後に、自主防災の招集のタイミングは決まっているか?招集連絡方法は決まっているか?等の自主防災の実態について訴えていました。

なお、笠縫学区では、施設管理者は震度5弱以上で出勤することになっています。

「草津ほほえみの会」が受章

十一月十二日(木)内閣総理大臣からの「緑綬褒章」が草津ほほえみの会(代表中村登美子氏)に滋賀県庁で授与されました。

平成四年に「地域の環境を良くする会」(現在「草津ほほえみの会」)のボランティア団体を発足させ、「自分たちの街は、自分たちで美しくしよう」を合言葉に、約三十年間、地域環境の美化活動に取り組みました。このたびの秋の褒章はほほえみの会の永年にわたる活動に対して授与されたものです。

主な取り組みは、市道草津駅下笠線(通称「びわこ通り」)を中心とした清掃活動や植栽活動です。メンバーは約50人で、活動は月2回(木曜日)。特記すべきは、活動に要する費用をメンバーの会費で賄っている点です。

地域の皆さんから「いつもご苦労さん、ありがとう」の声をかけていた

だけでなく、何よりの励みになるそうです。

なお、「ほほえみの会」代表の中村登美子さんは、「環境大臣賞」を受賞され、十月五日(月)草津市長から伝達されたことが取材当日に報告されました。

